

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立鬼塚中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末の導入により、ICTを活用した授業改善が進み始めた。校内研修により、新学習指導要領に準じた評価方法の工夫・改善も行うことができた。来年度はさらに工夫・改善を進め、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、学力向上に努める必要がある。 ・学校行事が制限される状況においても、特別活動や道徳科において心の教育に関する取り組みを行うことができた。生徒間暴力やいじめの件数は増加しているため、今後も継続的・組織的な取り組みが必要である。 ・不登校対策として、校内の連携、各種専門家・外部機関との連携をとりながら取り組むことができた。しかし、不登校生徒数は増加しており、原因が分かりづらいなど困難な事例が増えているため、教育相談体制を見直し、取り組みの改善が必要である。
2 学校教育目標	『感動 感謝 思いやり』 ～ 関わり合い、支え合い、認め合う学校づくりをととして ～
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業改善を進める。 ② 豊かな心を育み、人間関係づくりを充実させ、生徒間トラブルを減少させる。 ③ 不登校対策を充実させる。

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 生徒が主体的に学習に取り組めるよう授業を展開し、めあてやまとめ、振り返りの充実を図る。	●生徒質問紙で、「授業に主体的に取り組んでいる」に肯定的な回答の生徒の割合80%以上。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」及び「唐津の学びスタイル」を基本とした授業づくりを推進する	B	・マイプランの成果指標を達成したかどうかの結果が4件法で平均値2.91となっており、昨年度より有意に下がっている。「唐津の学びスタイル」がバージョンアップしているため、仕切り直しの研修が必要だと考えられる。	B	・昨年度より学力の向上が見られることが評価できる。生徒同士が学び合い、楽しく学べるような雰囲気づくりや、やればできるんだという成功体験を得られるような授業づくりの工夫をお願いしたい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○朝の時間や授業の振り返りを生かした家庭学習の充実を通して、基礎・基本の定着を図る。	○生徒質問紙で「目標をもって家庭学習に取り組んでいる」に肯定的な回答の生徒の割合70%以上。	・朝のドリルや各教科での振り返りを工夫するとともに、帰りの会で1日の学習の振り返りや、家庭学習の計画をたてるシートを工夫する。	B	・各教科単元ごとの計画表や振り返り表を工夫することができた。テストに向けての学習計画を作成する取り組みもできた。ただし、家庭学習の質・量の向上までにはいっていない。	B	・小学校の内容が習得できていないままという場合が少なくないのではないだろうか。家庭学習の習慣も含め、小学校や保護者との連携が重要だと考えられる。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価の保護者および生徒アンケート「心の教育項目」達成率をそれぞれ80%以上	・人権・同和教育を根幹におき、道徳教育や特別活動を充実させ、仲間づくりを推進し、豊かな心を育む教育を推進する。	B	・思いやりや感謝の項目は、保護者が4件法で平均値2.95、生徒が平均値3.45であり昨年度との差は見られなかった。保護者への情報発信も強化していきたい。	B	・アンケートの結果が、生徒の結果に比べ、保護者の結果が低いことが見てとれる。学校は教育活動の公開や積極的な発信をしていただきたい。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・日常の生徒観察や教育相談アンケート(心のとびら)を年10回実施し、事象の掘り起こしと生徒の心の変化の共通理解に努める。	B	・学校評価アンケートにおいて、教職員の意識が昨年度より上昇しているのに対し、生徒と保護者の意識は昨年度より有意に下がっていた。積極的な生徒指導・いじめ予防の取り組みが必要だと考えられる。	B	・いじめの件数が増加している。コロナ禍の影響もあり、体験的な活動が少なくなってしまう、生徒同士の交流が十分ではないのではないだろうか。計画的で継続的な取り組みが重要である。	(主)生徒指導主事 (副)各学年主任
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える生徒90%以上。	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	C	・学校評価アンケート結果では、この項目だけが他の項目と比べて有意に低い結果となった。学習意欲につながることも考えられ、今後の重点課題である。	B	・コロナ禍による影響も大きいのではないだろうか。この項目は生きる力として大切なことである半面、なかなか実感しづらいものだと思う。設問として厳しいのかもしれない。	(主)教務主任 (副)各教科主任
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒80%以上	・毎日の給食時の放送で、食に関する様々なトピックスを紹介する。	B	・健康に食事が大切であると肯定的に回答した生徒がほとんどであり、4件法の平均は3.85であった。また、保護者アンケートの朝食に関する項目も平均値3.8と高い水準をたもっている。ただし、改善されつつあるものの、一部残菜の課題は残る。	B	・本校の朝食を食べている率が、かなり高かったことは評価できる。残菜の課題については、各々の学年の特性もあるだろう。この傾向は校区の各小学校のころから見られるようだ。小中の連携や、保護者との連携が大切であろう。	・給食指導担当 ・養護教諭 ・生徒指導主事
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・交通安全教室の実施や職員と育友会や外部機関と連携しての登下校時の見守り活動を行う。	B	・地域の協力もあり、校区全体が交通安全に対する意識が高い。保護者アンケートでは、その活動に対する感謝の言葉が多く寄せられている。ただし、登下校時のヘルメット着用率が落ちてきている可能性があり、今後の継続的な取り組みが必要である。	B	・本校の朝食を食べている率が、かなり高かったことは評価できる。残菜の課題については、各々の学年の特性もあるだろう。この傾向は校区の各小学校のころから見られるようだ。小中の連携や、保護者との連携が大切であろう。	・安全教育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定	B	・10月～1月の月あたりの時間外の勤務時間が45時間以上の職員は64%→52%→44%→24%と減少傾向が見られた。今後も業務改善を進めていきたい。	B	・本項目に関しては、改善が難しいだろうと想像できる。法的な目標ラインもあるので、さらに工夫改善を進めていただきたい。協力できることがあれば協力していきたい。	・管理職
	○事務システムポータル及び校務システムの有効活用	○事務システムポータルを毎日3回チェックする職員100%	・業務上の資料配布や事務的な連絡事項をシステム上で行い、システムを活用しなければならぬ必然的な環境を構築する。	B	・事務ポータルやTeamsなどをチェックする職員とそうでない職員の温度差が依然としてある状況である。継続して取り組みながら、職場の文化として定着するよう工夫していきたい。	B	・生徒一人ひとりに配布されている端末の利活用も含め、今後ますますICT化が加速していくので、うまく活用しながら効率化を進めていただきたい。	・管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○	○教育相談運営体制の充実と不登校生徒への支援拡大	○昨年度より不登校生徒数を減少させることを目標とする。本項目は数値目標はそぐわない面もあるので、不登校対策委員会にて相互に質的評価を行う。	・SC、SSW、SSF等外部機関との連携を強化する。 ・ケース会議を工夫し有効な支援策を探る。	B	・校内体制の充実と外部との連携はよく実施できた。しかし、不登校生徒数は減少したとはいえ、ケースによっては困難な課題が残っているため、今後も組織的な取り組みが必要である。	B	・不登校生徒数は少ないが、先生方の取り組みや、各種専門家や外部機関との連携はよくなされていると評価できる。さらに各ご家庭との連携をすすめ、個々の課題に取り組んでいただきたい。	・教育相談担当 ・養護教諭
○								
○								

●・・・果共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導上の課題もあり、1人1台端末の利活用については課題が残った。来年度は「唐津の学びスタイル」具現化するため、単元ごとの計画・評価について校内研修を行い、主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業改善を進める必要がある。 ・生徒指導の課題やいじめ問題への対応として、全職員が「チーム鬼塚」として組織的に対応することができた。今後は、未然に防止するための開発的な生徒指導や、集団づくり・仲間づくりの取り組みをさらに充実させていきたい。 ・不登校対策として、校内の連携、各種専門家・外部機関との連携をとりながら取り組むことができた。しかし、不登校生徒数は増加しており、原因が分かりづらいなど困難な事例が増えているため、教育相談体制を見直し、取り組みの改善が必要である。
----------------	---